

第2章 市の概況

第1節 位置と地勢

熊本県のほぼ中央に位置し、九州の経済大動脈である国道3号と西は天草、東は宮崎県への結末点という地理的条件に恵まれ、美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた自然景観、そして都市的機能を併せ持つバランスのとれた水と緑と心豊かな地域です。

第2節 面積

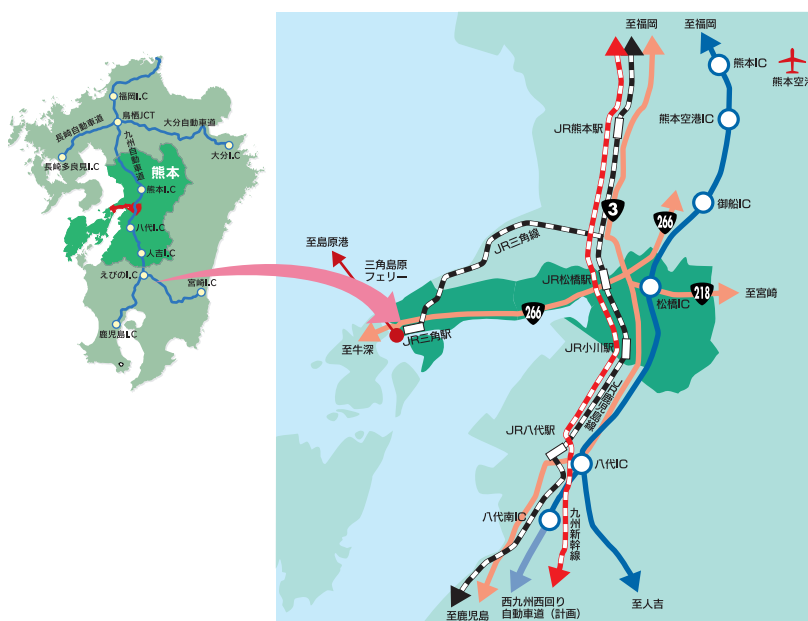
東西約31.2km、南北約13.7kmで188.55km²の面積を有しています。地目別に見ると、民有地の約30%が山林原野、約34%が農地、約7%が宅地、その他道路・湖沼・河川等が約29%となっています。

第3節 交通アクセス

鉄道は、JR鹿児島本線とJR三角線が走っており、熊本駅から松橋駅まで15分、三角駅まで52分、八代駅から小川駅までは13分で連絡されています。

道路については、国道3号が南北に走り、市の中心部から東は宮崎県延岡市へと続く国道218号、西は三角を経て天草へ続く国道266号が走っています。

また、九州自動車道が南北に走り、国道218号と交差する地点には松橋ICが立地し、益城熊本空港ICまで約12分、大宰府ICまで約75分で結んでいます。



第4節 歴史

豊かな自然と温暖な気候風土によって、縄文、弥生時代から生産活動、文化活動が営まれてきました。昭和29年、町村合併によって、旧松橋町、豊川村、豊福村、当尾村が松橋町に、昭和30年に旧三角町、戸馳村、郡浦村、大岳村が三角町に、昭和31年に不知火村と松合町が不知火町に、昭和33年に旧小川町、益南村、海東村が小川町となりました。豊野町は明治22年の町村制施行により豊野村となって以来その区域は変わらず、平成12年に町制を施行しました。

第5節 人口と世帯数

平成12年の国勢調査によると、合併前の5町の総人口は63,968人で、昭和55年以降、全体では増加傾向にあります。また世帯数は19,949世帯となっています。

高齢人口（65歳以上）構成比は23.1%であり、熊本県平均の21.3%に比較して、高齢化が若干進行していることがうかがえます。

単位：人

年次	世帯数	人口			1世帯 平均人数	人口密度
		男	女	総数		
昭和30年	13,842	35,882	39,670	75,552	5.46	403.2
昭和35年	14,141	33,504	37,664	71,168	5.03	379.2
昭和40年	14,193	30,526	34,532	65,058	4.58	346.6
昭和45年	14,699	28,807	32,959	61,766	4.20	328.7
昭和50年	15,528	28,862	32,586	61,448	3.96	324.9
昭和55年	16,337	29,479	32,933	62,412	3.82	330
昭和60年	17,174	30,036	33,626	63,662	3.71	336.4
平成 2年	16,916	29,765	33,636	63,401	3.75	336.3
平成 7年	18,912	30,102	33,906	64,008	3.38	339.6
平成12年	19,951	30,036	33,932	63,968	3.21	339.3

資料：国勢調査

第6節 産 業

総生産額の割合の主なものは、農林水産業が5.5%、製造業が21.9%、建設業が8.5%、卸小売業が9.7%、サービス業が17.6%となっています。

農業については、その多彩な自然条件を生かし、米、い草、メロン、デコポンなどの柑橘類、花き、野菜、落葉果樹などの栽培が盛んです。しかしながら、農業従事者の高齢化が進んでおり、後継者の育成や新たな特産品の開発などが課題となっています。

また、水産業についても、干潟化による水産資源の減少、産地間競争の激化などに伴い、経営体数が毎年減少してきています。水産資源の保全や他産地との差別化、地産地消の推進などが課題となり、流通システムの改革や経営の安定確保が必要となっています。

商工業においては、大型商業施設や企業立地が進んでいますが、身近な買い物の場、コミュニティの中核としての中心市街地の活性化が望まれています。また、地域特性を生かした企業の育成が求められています。